

### 「いのち」を考える

#### (2) 心のいのち

法善寺 住職 辻本昭信



前号では、1. 身のいのちの死 2. 心のいのち①仏教におけるいのちについて述べた。本号では、②真宗においていのちをどう捉えるのかを考えてみたい。

#### (1) 往生する「いのち」

真宗では、生死の問題の解決は往生浄土である。「死ぬのではない、仏の国に仏として生まれていく」と解く。この世のいのちが終わる時が如来の浄土に生まれる時であると考ええる。

いのちの行く末(死)は、本願を信じて仏になっていくというのである。本願は南無阿弥陀仏と表され、「信じさせ称えさせて仏になってもらいたい」との願いのことで、阿弥陀仏の「まかせておけ」との呼び声である。

#### (2) 仏としてここへ帰ってくる「いのち」

浄土で仏となった方は、そのままそこでじっと留まることなく、阿弥陀様と一体となってこの世の私たちのために働き、本願を念仏(南無阿弥陀仏)として届けて下さる。まさに、如(浄土)からここへ来て下さっている如来様である。この働きにより私たちは仏に出会えるわけで、往生浄土された人と又会えるのであり、「さよならはない世界」である。

もともと、いのちは縁をすべてとってしまおうと無我、空(ゼロ)である。縁があつて私は今ここに居るだけである。本来空である私が今ここに居るのだと悟ると執着がなくなり死すべき身を受け入れる事が出来る。浄土に生まれて仏となったもの

は、智慧と慈悲を獲得してすべての人を救う阿弥陀仏の活動に参画する。

#### (3) 日々生きる「いのち」

大谷派の標語に「今いのちがあなたを生きさせている」とある。ここで言う「いのち」は如来のいのちのことである。「生かされて生きている」というのはこのことである。如来の大きないのちの中に生かされている。無量寿の海に浮かんでいるのが私たちの命である。

念仏は、縁起するいのち「生かされているいのち」に気づかない私たちに、愚かさを絶えず気づかせるために阿弥陀仏の本願が、智慧と慈悲となって回向されたものである。正信偈の古文「大悲無倦常照我」大悲ものうきことなく常に我を照らしたもう(源信和尚)、この言葉は、仏の智慧が大悲となって、私たちに働きかけていることを示している。



#### (4) 念仏者の生き方

南無阿弥陀仏は「どうか仰せに従ってくれ、阿弥陀にまかせよ」との仏の声である。私はこれを聞き、南無阿弥陀仏「仰せに従います、おまかせします、ありがとうございます」と返事する。これが信心を頂くことである。いのちのことは阿弥陀様が解決して下さっている。

南無阿弥陀仏(大丈夫いつも一緒にいるよ)との呼び声を聞き、安心して人生を送ることが出来る。念仏により安心が得られると人格が変わる。「念仏者の生き方」と言われるもので、ご門主の出された四カ条がそれである。(1. 自分の殻に閉じこもることなく、おだやかな顔と優しい言葉を大切にします。ほほえみかける仏様のように 2. ... 3. ... 4. ...)

# 島上南組 だより

浄土真宗本願寺派  
2020年(令和2年)1月  
第11号  
編集・発行  
高槻市大塚町西證寺内  
島上南組実践運動委員会

### 組長ごあいさつ

島上南組組長 尾崎貞良

新年明けましておめでとうございます。  
令和二年の始まりです。

昨年は五月一日から令和元年となり、中途半端な令和時代の始まりでしたが、祝賀ムード一色の内に、天皇即位の宮中行事が終りました。これらの行事は、神々に参拝し、国家安穩・五穀豊穰を祈願する神事です。



「国民の幸せを願う」と天皇は事あるたびに発言され、国民に寄り添う姿を見せられました。

幸せを願って頂くのはありがたいのですが、幸せを願って病気が治ればお医者様は要りません。願ってお金が儲かれば貧困問題も起こりません。

仏教は無常を示し、縁起の法を教えます。この世の形ある物

は増えたり減ったり壊れ無くなっていく。その物事全て、因(たね)があり果(花咲く)をもたらす。しかし、種があつても必ず花が咲き実がなる訳ではありません。種を育てる縁(光と水と栄養を与え世話すること)が働かなければ芽も出なければ花も咲きません。病気になるということは、病気の種があり、生活習慣の乱れ・不摂生により病気の種を育てた結果です。祈って願って治そうとしても重病になるばかりです、病気の原因を見つけ出し、その原因を改善し、取り除けば病氣も治ります。困ったことが起これば祈っても願ってでも何とかしたい思いは切実です。しかし何も変わりません、かえって空しいばかりです。

私たち仏教徒は「縁起の教え」に学び、因・縁・果の道理を心得て、苦を見つめ苦を超えて、共に敬い助け合い安心の人生を「南無阿弥陀仏(無量光・無量寿)」を抛り所に、強く明るく究極の楽土(極楽)に向かって生き抜きましょう。

本年もよろしくお願い致します。

合掌

## 元旦の

## 今のいのちに

## 遇う不思議



### 総代会より

総代会会長 玉村圭二

総代会研修会は浄土真宗必携「み教えと歩む」を継続テーマに9月22日普賢寺で46名、10月21日天川西法寺で40名の参加者により実施しました。

また、聞法会を9月17日に参加者43名で正覚寺にて実施しました。講師に滋賀教区大津組福賢寺住職、三上章道師を招き「合掌が出来る社会へ」について講演していただきました。



組内寺院報恩講参拝を9月28日～11月17日に組内寺院を毎年順番に5ヶ寺ずつ報恩講法要日程に合わせ17ヶ寺の総代を5班に分けて参拝しました。

本願寺念仏奉仕に24名で12月9日から一泊二日で参加しました。今回は3回目になりますが、他の滋賀教区野洲組仏婦、茨木東組と合わせ一九一名で念仏奉仕しました。現在、阿弥陀堂の内陣部分を修復工事のため阿弥陀如来像他は御影堂へ移動されていて、晨朝・法要行事等は全て御影堂で行われています。今回は1日目に御影堂の清掃奉仕、2日目は法要参拝を行い終わりました。



### 仏教婦人会より

仏教婦人会会計 築山孝子

去る10月20日(土)西證寺をお借りして第24回仏教婦人会大会とキッズサンガを会員55名の皆さま、各寺院より48名の参加児童とともに開催させていただきました。

前半の仏教婦人会代表と代表の子どもたちによる献灯、献花、献香ののち仏教婦人会讃歌コーラスの皆さまの音楽法要で重誓偈をお勤めしました。仏教婦人会辻井会長、尾崎組長、寺族婦人会辻本会長のあいさつに続き、島上南組キッズサンガ担当の内本康宏様より子どもたち向けの分かりやすい法話をいただきました。

後半のキッズサンガでは模擬店と会員様より提供していただいた品物のバザーが境内で行われ地域の方々もたくさん来場されました。15時15分より子どもたちをはじめ参加者全員が本堂に集まり、寺族婦人会制作の紙芝居「親鸞さま」を鑑賞しました。この度の大会開催に当たりご協力くださった会員の皆さま、地域の皆さまに感謝申し上げます。

その他、行事報告として10月10日より一泊二日で大津教区仏教婦人会連盟の会員交流会(富山・岐阜)に5名、近畿地区仏教婦人会大会(和歌山)に13名の南組仏婦会員の参加がありました。



### 若婦部より

若婦人部会計 西口典子

仏教婦人会大会(キッズサンガ)では若婦人部役員を中心に射的・1円玉釣り・魚釣り・輪投げの四つの模擬店を出店させていただきました。数ヶ月前から店舗製作や景品の準備を始め、慣れない手作業に四苦八苦・試行錯誤を繰り返しつつも大会直前には全ての店舗を設置し終えることができました。

当日は事前の心配をよそに、子ども達からは景品がなくてもゲームに参加したいと言われるほどの盛況で、怪我や混乱もなく、楽しい時間を提供できたことに達成感と喜びを感じました。



### 寺族婦人会より

西教寺 藤井玲子

寺族婦人会は、仏教婦人会大会(キッズサンガ)で子どもたちに向けて親鸞聖人についての紙芝居を上演しました。

7月下旬から親鸞聖人のみ教えとご生涯について学び、シナリオを作成し、8月に入って下絵を描き、色塗りと補強を行い、9月には音楽や効果音の録音と、会員は協力して猛暑の中で作業を行い、完成しました。

また当日はナレーションや主要な登場人物、音響係など手分けして役割を務めました。上演中はたくさんの子どもの拍手や大人の方々が熱心に見入ってくださって、多くの拍手をいただいたのが有り難かったです。二〇二三年は親鸞聖人ご誕生八五〇年となります。

聖人のみ教えに改めて出会わせていただいたご縁に感謝し、この紙芝居が様々な場、機会に活用されることを願っております。

